

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133	A-136	24-016	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Assessing how alcohol use patterns relate to obesity among American adolescents from rural and urban areas: Five years of pooled data 農村部と都市部の米国青年におけるアルコール使用パターンと肥満との関連性の評価: 5年間の集積データ			
執筆者			
Vazquez CE, Brown FA, Ohri F, Baiden P.			
掲載誌			
PLoS One. 2024 Jun 27;19(6):e0305638. doi: 10.1371/journal.pone.0305638. eCollection 2024.			
キーワード			PMID
肥満、アルコール使用、居住地域			38935696
要旨			
<p>目的: 肥満は居住地域やアルコール使用と関連しているが、これら2つの要因がどのように相互作用し、青少年における肥満リスクを増加させるかについては十分に解明されていない。本研究は、米国の農村部および都市部に居住する青少年におけるアルコール使用と肥満の関係を検討することを目的とした。</p>			
<p>方法: 本研究は2015年から2019年に実施された米国の全国薬物使用・健康調査 (National Survey on Drug Use and Health) のデータを使用した。対象は12歳から17歳の青少年39,489人である。アルコール使用は、「過去12ヵ月間にアルコールを飲んだ総日数」が調査され、選択肢は1~365日、使用なし、過去12ヵ月に使用なしであった。肥満を従属変数とし、年齢、性別、人種/民族、収入、喫煙状況、居住地域、およびアルコール使用を独立変数として回帰分析を行い、居住地域とアルコール使用の交互作用項も分析に含めた。また、交互作用を評価するために予測確率をプロットした。</p>			
<p>結果: 対象者全体の80%は都市部、20%は農村部であった。過去12ヵ月間の平均飲酒日数は農村部の青少年は都市部に比べてわずかに多かった(7.16日対5.63日)。また肥満は全体の16%であり、農村部が20%、都市部15%であった。都市部の青少年と比較して、農村部の青少年は肥満のオッズが1.35倍(95%信頼区間: 1.25, 1.47)高かった。予測確率分析では、過去12ヵ月間に40杯程度の飲酒頻度に達するまでは飲酒量が少ない場合に農村部の青少年の肥満確率がより高いことが示された。</p>			
<p>結論: アルコール使用と肥満の関連における農村部と都市部の違いは、飲酒頻度に依存する可能性があり、農村部の青少年の方が肥満リスクが高いことが示唆された。</p>			